第４学年　総合的な学習の時間　学習指導案

日　時　令和〇年〇月〇日（〇）
５校時
学校名　小学校
対　象　第４学年
会　場　教室
授業者　〇〇　〇〇

１　単元名　　「バリアフリーとは？」（福祉）（地域学習）

２　単元目標

学校や地域の「バリア」を調査したり、障害そのもの及び障害のある人の生活について学んだりすることを通して、同じ社会に住む一員として様々な人と共生していることを理解し、バリアフリーについて考えるとともに、ユニバーサルデザインの視点から、誰もが暮らしやすい町にしていこうとする考えを大切にして生活していくことができるようにする。

３　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　障害のある人の暮らしの不便さに気付くとともに、自分が住む地域では、様々な人が支え合って生活していることを理解している。	①　バリアフリーやユニバーサルデザインについての問題を見いだし、課題を明らかにし、解決に向けて見通しをもっている。	①　課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。
②　バリアフリーの状況を捉えるために、多様な視点で、学校や地域での調査を実施している。	②　バリアフリーやユニバーサルデザインの現状を捉えるために必要な情報について、手段を選択して多様な方法で収集したり、蓄積したりしている。	②　バリアフリーに向けた探究的な活動体験を通して、自分の考えと異なる友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。
③　誰もが暮らしやすい社会として、ユニバーサルデザインがあることを理解する。	③　課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。	③　誰もが暮らしやすい社会の実現のために、自分ができることを通して、自分と身近なバリアフリーとの関わりを見直そうとしている。
④　バリアフリーと自分たちの生活がつながっていることの理解は、目に見えるバリアや目に見えないバリアとの関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	④　伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	

4　指導観

⑴　単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）総合的な学習の時間第５章第２の３（５）

> 目標を実現するにふさわしい探究課題については，学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題，児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること。

を受けて、「現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題」として設定した。

この課題の特質について、小学校学習指導要領解説 総合的な学習編では、次のように示している。

> 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題とは、社会の変化に伴って切実に意識されるようになってきた現代社会の諸課題のことである。そのいずれもが、持続可能な社会の実現に関わる課題であり、現代社会に生きる全ての人が、これらの課題を自分のこととして考え、よりよい解決に向けて行動することが望まれている。また、これらの課題については正解や答えが一つに定まっているものではなく、従来の各教科等の枠組みでは必ずしも適切に扱うことができない。したがって、こうした課題を総合的な学習の時間の探究課題として取り上げ、その解決を通して具体的な資質・能力を育成していくことには大きな意義がある。

そこで、学校や地域におけるバリアフリーの現状を調査し、障害の有無に関わらず「誰もが暮らしやすい」を児童が主体的に追究して単元計画を作成した。

⑵　児童観

児童はこれまでに、地域学習を中心に取り組んできた。第３学年では、「大好き！○○」で、町の中にある施設や店について調べ、地域の方々との関わりから、町のよさを知ることができた。また、第４学年の前期の「○○川を守ろう」では、児童の生活に身近な○○川でフィールドワークなどの体験活動や環境について調べることで、地域の自然と深く関わることができた。

今回の単元では地域学習として、学校の中や通学路、家の周り等における「バリア」を調査したり、体の不自由な方々の生活を疑似体験したりする体験的な活動を取り入れ、児童にとってあまり身近でない「障害」や「バリアフリー」に着目させる。また、「誰もが暮らしやすい町」について考えることの大切さに気付かせる。こうした活動を通して、様々な人が暮らしている地域の中で、「誰もが暮らしやすい町」を実現するために、地域の一員として自分にできることを実践しようとする態度を養っていきたい。

⑶　教材観

本単元で取り扱う「バリア」や「バリアフリー」は、児童の生活にとって、馴染みがない言葉であると考えている。そこで、児童が興味・関心をもって、主体的な学習活動を継続させるために、第１次では、他教科で学習した目の不自由な人の見え方や、児童にとって身近な場所における「バリア」を調査したり、体の不自由な方々の生活を疑似体験したりする体験的な活動を取り入れる。第２次では、さらに、いろいろな体の不自由な方々の暮らしに目を向けさせ、本学級が定めた「バリア」の定義から、「バリアフリー」になるために必要なことを探究的な学習として取り組む。第３次では、第１次・第２次での学習を深めることで、「誰もが暮らしやすい町」について考えることのよさに気付かせたい。

５　年間指導計画における位置付け

<table>
<tr><td></td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr>
<tr><td>総合</td><td colspan="5">○○川探検隊（35）
①○○川を知ろう
②○○川の魅力を伝えよう</td><td colspan="6">バリアフリーとは？（35）
①身近なバリアを見つけよう
②障害のある人が暮らしやすい工夫を見つけよう
③誰もが暮らしやすい町を実現させよう</td></tr>
<tr><td rowspan="3">他教科等</td><td colspan="2"></td><td colspan="2">国語
「リーフレットで知らせよう」</td><td colspan="2">国語
「新聞を作ろう」</td><td>国語
「新スポーツを考えよう」</td><td colspan="3">国語
「調べてわかったことを発表しよう」</td></tr>
<tr><td colspan="3">社会
「私たちのくらしと水道」</td><td colspan="5"></td><td colspan="3">社会
「私たちの都のまちづくり」</td></tr>
<tr><td colspan="3">社会
「私たちのくらしとごみ」</td><td colspan="6"></td><td>道徳
「点字メニューにちょうせん」</td></tr>
</table>

６　単元の指導計画と評価計画（全 35 時間）

次	時	目標	○学習内容　・学習活動	評価規準（評価方法）		
				ア	イ	ウ
「身近な『バリア』を見つけよう」	1	バリアフリーの意味について理解し、町には、体の不自由な方も暮らしていることを理解する。	○　自分たちの住んでいる町には、障害のある人も暮らしていることや、バリアフリーという考えがあることを知る。 ・　大学生からバリアフリーに関するお話を聞く。 ・　身近な写真（トイレやバスの中など）から、バリアフリーを見付ける。	①（ワークシート）		
	2	大学生から話を聞いて、町の中のバリアフリーについて理解する。	○　町の中に様々な種類のバリアフリーがあることを知る。 ・　なぜいろいろな場所にバリアフリーがあるのか考える。 ・　バリアフリーを学んだ感想を書く。	①（振り返り）		
	3 4 5	障害のある人にとっての暮らしの中の不便さに気付く。	○　視覚障害に関する動画を見て、感想をまとめる。 ・　動画を視聴し、考えたことや気になったことを書く。	①（感想）		

	6 7	視覚障害の方の立場で、学校や地域の「バリア」を調査する。（「バリア」：段差、場所が分からない、信号、階段など）	○　普段、何気なく通っているところにも、視覚障害の方にとっては「バリア」となるものが多く存在することに気付く。 ・　視覚障害の疑似体験を行う。	②（振り返り）		
	8 9	調査したバリアをスライドにまとめる。	○　校内や地域に「バリア」が存在することを理解する。 ・　学習者用端末を用いて、「バリア」となることについてカメラ機能を使って撮ったり、スライドにまとめたりする。 ○　「バリア」について、自分の考えをもつ。	②（スライド）		
「障害のある人が暮らしやすい工夫を見つけよう」	10 本 時	クラスが考えるバリアの定義（意味）を決定し、今後の学習の見通しをもつ。	○　クラスが考える「バリア」を定義する。 ・　「バリア」についてグループで話す中で、「バリア」は物だけに限らず、周りの人の考えの中に潜んでいることに気付く。 ・　「バリアをなくしていきたい。」、「視覚障害だけでなく、他の障害やバリアについてもっと調べたい。」など、今後の活動についての意見を出し合い、まとめる。		①（振り返り）	
	11 12 13	障害のある人たちの生活とバリアフリーについて調べる。	○　「聴覚」「肢体不自由」等の障害の種類ごとに、どのように生活しているか調べる。 ・　調べる視点を出し合う。 ・　バリアフリーを実現するために何が必要か話し合う。		②（シート）	
	14 15	調べたことを整理したり分析したりしてまとめ、伝え合う。	○　前時で調べたことを整理・分析し、障害の特性に合わせた身の回りのバリアフリーを伝え合う。 ・　紙パックの牛乳の選び方、シャンプーの選び方、ノンステップバスの工夫等を発表し合う。		③④（制作物・発表）	

	16 17 18	前時で伝え合ったことから、バリアフリーについて、自分たちに何ができるか考える。	○　調べたことをまとめた資料を見て、自分たちに何ができるか考える。 ・　ワークシートに自分の考えをまとめ、「世の中をもっとバリアフリーにするべきではないか」等の意見を出し合う。		④（振り返り）	
「誰もが暮らしやすい町を実現させよう」	19	だれもが暮らしやすい町とはどのような町か、意見を出し合う。	○　クラスが考える「だれもが暮らしやすい町」を定義する。 ・　ウェビングマップで、だれもが暮らしやすい町のイメージを広げ、クラスで一文にまとめる。			①（話し合い・振り返り）
	20	だれもが暮らしやすい町を実現するために、自分たちにできることを考える。	○　だれもが暮らしやすい町を実現するためにできることを考える。 ・　「2050 年のよりよい○○」をテーマにポスターを書いたことを想起し、そのバリアフリー版を作成し、発表する見通しをもつ。		①（話し合い・振り返り）	
	21 22 23 24	ユニバーサルデザインについて知り、だれもが暮らしやすい町の実現のために必要なものを考え、スライドで提案する。	○　だれもが暮らしやすい町を実現するためのヒントとして、ユニバーサルデザインがあることを知り、改善策を提案する。 ・　身近にあるユニバーサルデザインを知り、他にどのようなものがあるか調べる。 ・　自分が考えたユニバーサルデザインを提案する。	④（シート）	②（発言・スライド）	
	25 26 27	小グループごとに分かれ、発表会に向け、スライドや台本作成等の準備を行う。	○　保護者等の相手に伝わるように、発表会に向けた準備を行う。 ・　伝えたい内容ごとにスライドや台本等を作成する。		③（制作物）	

	28 29	発表会のリハーサルを行い、改善点について考え、よりよい発表ができるようにする。	○　発表会のリハーサルを通して、発表の改善点に気付く。 ・　互いに発表し合い、改善点をアドバイスし合う。			②（発表・振り返り）
	30 31	「2050年のよりよい○○（バリアフリー版）」発表会を通して、だれもが暮らしやすい町を実現するために必要なことを提案する。	○　だれもが暮らしやすい町を実現するために必要なことを聞き手に伝わるように表現する。 ・　小グループごとに発表を行う。		④（発表・制作物）	
	32	発表会を振り返り、成果と課題を出し合う。	○　発表会のアンケートを通して、成果と課題を整理し、発表会を振り返る。 ・　模造紙に成果と課題をまとめる。			③（振り返り）
	33 34	自分たちがこれからどのように「バリア」と向き合っていくのかを考え、それぞれの意見を交流する。	○　自分が「バリア」とどう向き合うか考える。 ・　「バリア」についての考えを共有する。 ・　友達の考えを聞いて、自分の考えを改めて書く。	③（振り返り）		
	35	今までの学びを振り返り、自己の生き方について考える。	○　だれもが暮らしやすい町を実現するために、どのような人間になりたいか考える。 ・　この学習を通してどのような人間になりたいかを表明する。			③（振り返り）

7　指導に当たって

⑴　導入時の学習展開を工夫する。

導入では、今までに国語や道徳で体の不自由な人について取り扱ったことを想起させ、横断的な学習として、バリアフリーの定義や体の不自由な人への理解に繋げていきたい。また、目の不自由な人の見え方を体験することや、社会福祉を専門に学んでいる大学生による講話を通して、体の不自由な人が感じる困り感や不自由さを理解させたい。

⑵　障害に関する児童の認識を変容させる。

障害のある人に対して、「かわいそう。」「手を差し伸べてあげるべき。」等の認識に留まりやすい。そこで、本単元では、障害のある人が暮らしやすいということは、誰もが暮らしやすいことであると捉えられるように授業をデザインした。児童が、誰にとってもよいものを追求していくことの大切さに気付けるよう、視覚障害や肢体不自由、お年寄り、妊婦の方等の様々な立場から考えられるようにする。

8　本時（全 35 時間中の第 10 時）

⑴　本時の目標

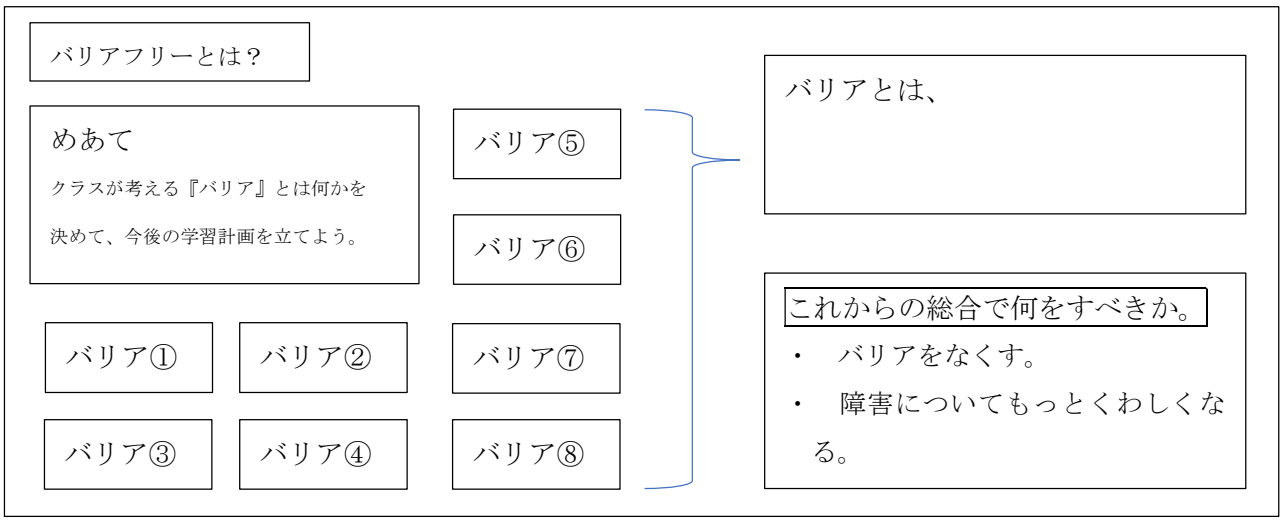
クラスが考えるバリアの定義（意味）を決定し、今後の学習の見通しをもつ。

⑵　本時の展開

時間	○　学習内容　・　学習活動	・　指導上の留意点	評価規準 （評価方法）
導入 5 分	○　前時までの学習を振り返る。 ○　本時のめあてを確認する。 クラスが考える『バリア』とは何かを決めて、今後の学習計画を立てよう。	・　掲示物を基に、前時までの学習を振り返る。	
展開 30 分	○　事前に入力した「バリア」とは何かについて書かれているシートを共有し、「バリア」についての見方を整理する。（15 分） ・　小グループで、クラス全員が書いた「バリア」の考えを、カテゴリーごとに整理する。 ○　小グループ（８つ）ごとの考えをクラス全体で共有し、クラスが考えた「バリア」の定義を決定するとともに、今後の活動についての意見を出し合う。（15 分） ・　小グループ（８つ）ごとの考えをクラス全体で共有し、「バリアとは…」の続きを決定する。 「バリア」とは、お互いの心の壁である。 「バリア」とは、社会にある差別である。 ・　「バリアをなくしていきたい。」などの意見を出し合う。	・　学習用端末を用いて、一人一人の「バリア」に対する考えを共有できるようにする。 ・　クラス全員の「バリア」に対する考えを整理し、最終的にクラス全員が納得できる「バリア」の定義ができるようにする。 ・　定義を文章化しやすいように、「バリアとは…」の続きとして、作成させる。 ・　「バリア」は物だけに限らず、周りの人の考えや社会の中に潜んでいることに気付けるとよいが、教え込みにならないよう配慮する。 ・　「視覚障害だけでなく、○○を調べたい。」など、今後の活動の目安となる意見を共有し、板書する。	

まとめ 10 分	○　本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 ・　今後どのような学習活動をすればよいか、学習者用端末からフォームに入力する。	・　振り返りの視点として、本時の板書や共有した画面を見て、改めて気付いたことや考えたことを振り返るよう助言する。 ・　「○○のために、～をしていきたい。」と、理由を付けて書けるとよいことを伝える。 ・　何人かの意見を発表させ、次回以降の活動の見通しをもたせる。	イ―① （振り返り） 「次にやるべきことが理由とともに書けているとＡ、一方のみはＢ」

⑶　板書計画



⑷　授業観察の視点

①　「バリア」について考える方法は適切であったか。

②　思考・判断・表現について評価する場面は適切であったか。